

令和2年度あきた型学校評価シート
(秋田県立能代支援学校)

評価領域

学習指導

重点目標	日常生活や社会生活に生きる知識・技能を高める学習指導の充実		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害(30%)や肢体不自由(10%)のある児童生徒もおり、多様な実態に応じた学習指導の充実を図る必要がある。 前籍校での不登校傾向などの理由により、学習空白、学習意欲の低下等の様子が見られる児童生徒がいる。 各教科等で学んだことが実際の生活になかなか生かされない。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態把握、自立活動の中心課題の確認、学習指導要領の目標・内容の確認という授業づくりの基礎・基本を凡事徹底し、自立と社会参加に向けた一人一人に応じた指導の充実を図る。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童生徒の学び方の特徴に注目しつつ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で授業改善を進める。 教材・教具や補助具の工夫、ICT機器の活用により学習課題に向かう意欲や学び合いを促し、学習内容の理解度を高める。 各教科や各教科等を合わせた指導について、指導目標や指導内容につながりをもたせ、学習や生活への活用を図る。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導について各学部1回の全校授業研究会を実施し、協議内容を基に授業改善を図った。保健体育科の授業については栗田支援学校の教育専門監からの助言を得た。 パナソニック教育財団の実践研究助成を受け、専門家からの助言を得ながら視線入力や遠隔操作ロボット等のICT支援機器を活用し指導の充実を図った。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの外部専門家による授業や遠隔操作ロボットを活用した学校間交流などICTを効果的に活用した授業づくりの工夫により、児童生徒の学びの質が高まった。 単元・題材評価シート等の活用により、各教科や各教科等を合わせた指導のつながりが明確になり、児童生徒が学んだことを活用し課題解決する姿が見られるようになった。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは保護者の97%、職員の96%が本目標について「とてもよい」「よい」という評価をしている。 生徒から「今までできなかったことができるようになり、進路について考えるようになった」という声が聞かれた。 	C
↑ 評価基準 ↓	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> これまで以上に児童生徒の表情が生き生きとしており、主体的、積極的に学習に取り組んでいる様子が見られた。 支援機器の活用により、肢体不自由の児童生徒の学習活動の幅が広がっている。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を踏まえながら、様々な学習上、生活上の困難さに応じたICT機器の積極的な活用と主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図る。 		